

## 個別ゼミ概要(オリエンテーション配付、WEB掲示用)

授業科目名	如水会寄附講義「キャリアゼミ」(如水ゼミ)			
ゼミ名	「商社(春・夏)」			
講師(幹事)	内藤善治(ないとう よしはる) 三井物産(株) 保険・リスクマネジメント室 次長	大学教員	筒井 泉雄 教授	
学期	春夏	開講時間	水曜 4時限・5時限	
<p><b>【授業の目的・到達目標と方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わが国独自の存在として発展してきた総合商社とは何か。その機能、役割、現代社会におけるあり方を理解する。具体的な事業分野、それに対応する多種多様な取り組み方、大型プロジェクト等、多様な事業展開の中から商社の実態を解きほぐし、企業としての可能性、将来性、活力、課題を議論する。</li> <li>毎回、異なった主要商社、異なった事業分野、経験をお持ちの先輩講師により、その経験を踏まえて、オムニバスの現代商社の最前線における事業活動や経験を語ってもらい、異なった切り口から、企業類型としての商社とそのビジネスモデルを把握することを授業の目標とする。</li> <li>資源開発など戦略的海外投資事業により、近年資源価格高騰による良好な業績を謳歌していたが、直近はその業績にばらつきが見られる。そのような中で、IT・電子技術・バイオ等の分野での先端的事業への取り組み、ライフスタイル分野での食料事業・小売事業・医療事業への取り組み、戦略的海外投資事業など、最も今日的な事業や案件の中から商社の付加価値の源泉、グローバルな展開の理由、企業としての戦略性や取り組み方を理解することにより、その将来性・可能性を考え、議論する。</li> <li>下記講義に加え、実際にいずれかの商社を1社訪問し、会社説明を受けるとともに、若手先輩と交流したり、企業の現場を見たりして、質疑応答や議論を試みることを授業の一環として実施する。</li> </ul> <p>予め期末レポートの課題を提示し、一つの共通の問題意識をもって異なった講義を受け、議論に参加するという手法をとり、その結果をレポート課題とします。</p>				
<p><b>【授業の内容と計画】</b> 役職は平成30年2月1日現在          授業の主要なテーマと予定講師は下記の通りとするが、状況次第で変更することもある。春・夏学期会社訪問は 三菱商事株式会社殿を7月4日(水)に実施する予定(詳細内容は追って決定)。</p>				
月日	講師名	卒年	社名・役職	テーマ
4月18日	内藤善治	昭59商	三井物産株式会社 総合力推進部 保険・リスクマネジメント室 次長	商社とは何であるか ～ 歴史・変遷、機能・役割、各社の営業戦略・特色、そして本質
4月25日	新井健太	平6社	双日株式会社 情報産業・航空事業部 副部長	空港事業の取り組みについて
5月16日	田部井崇浩	平11商	丸紅株式会社 穀物本部ガビロン事業部 事業管理課 課長	穀物ビジネスへの取り組みについて
5月30日	和田哲朗	平6社	三菱商事株式会社 エネルギー資源第一本部 イントリア石油・天然ガス事業部 部長代行	LNG事業の取り組みについて
6月13日	西澤善弘	昭61商	伊藤忠商事株式会社 建機・産機部門 建設機械部長	機械分野の商社比較
6月20日	治良博史	昭51社	住友商事株式会社 総合モバイル事業部 参事 (社)全携協 事務局長	商社におけるIT・メディアの活用事例 ～ ビジネスとしての取組
7月4日	内藤善治	昭59商	三井物産株式会社	会社訪問(詳細は後日決定)

## 個別ゼミ概要(オリエンテーション配付、WEB掲示用)

### 【テキスト・参考文献】

- ・ 「総合商社 商権の構造変化と 21 世紀戦略」 島田克美・黄孝春・田中彰共著、ミネルバ書房 2003 年
- ・ 「総合商社 商社機能ライフサイクル」 岩谷昌樹・谷川達夫共著 税務経理協会 2006 年
- ・ 「商社 2012」 美原融 監修 産学社 2011 年
- ・ 「総合商社の研究」 田中隆之著、東洋経済新報社、2012 年
- ・ 「現代総合商社論」 三菱商事 (株) 編、堀口健治・笹倉和幸監修、早稲田大学出版部
- ・ 「総合商社 - その「強さ」と日本企業の「次」を探る」 田中隆之著、祥伝社新書、2017 年

### 【受講生に対するメッセージ、希望】

- ・ 現場の一線で活躍している先輩講師と交流する良い機会でもあり、議論と交流の中で、学生諸君の積極的な参加や発言を期待します。ゼミ形式ゆえ、一方的にならないよう、あくまでも双方向的な形で実施します。
- ・ つい 3-4 年前まで、資源や原料価格の高騰により、総合商社は総じてかなり良い業績にありましたが、ここに来て資源ビジネスや原料ビジネスに停滞感が見えてきて、各社の業績にもばらつきが出始めてきました。また、米国のトランプ大統領による TPP やパリ協定の離脱、欧州での BREXIT や頻発するテロ、北朝鮮による核開発、ロシアのウクライナ問題、イランとアラブ諸国との対立など、地政学的なリスクも顕在化しつつあり、ビジネスを取り巻く環境も不透明感が高まっています。このような状況下、商社各社は注力すべき事業領域・地域をあらためて見定め、経営資源 (ヒト・モノ・カネ) の調達と配分をはかり、さらなる自己変革に挑んでいます。
- ・ 過去商社不要論が、何度も叫ばれながら、なぜ商社はこれを跳ね除け、復活し発展してきたのでしょうか。商社とは何か、という設問を通じて、会社とは何か、ビジネスとは何か、さらには、働くこととは何か、を講師の方々と議論し、考えて下さい。
- ・ 新聞、ネット等による経済活動報道等をも参考とし、講師を質問攻めにするくらいの問題意識、気力をもってゼミに参加してください。またどんどん意見を述べてください。